

# 福島第一原子力発電所 EエリアD1タンクの解体着手

- 福島第一原子力発電所では、事故当時に汚染水を貯めていたフランジ型タンクから、漏えいリスクの低い溶接型タンクへの切り替えを進めてきました。
  - 2015年5月、事故当時に汚染水を貯めていたフランジ型タンク解体を開始して以降、全334基中333基の解体が完了しています。
  - 最後の1基となるEエリアD1タンクは、2025年11月17日にタンク内のスラッジ回収が完了し、その後、タンク内の洗浄および除染作業を進めてまいりました。
  - なお、Eエリアでは2019年5月からフランジ型タンクの解体を進めており、2024年7月までに全49基中48基の解体を実施済みです（D1タンクのみ未解体）。
- <2025年11月17日までにお知らせ済み>

- スラッジ回収後に進めてきたEエリアD1タンクの洗浄および除染作業が完了したことから、5月12日から解体に着手します。
- 解体完了は6月上旬を計画しており、これをもって、事故当時に汚染水を貯めていたフランジ型タンク全334基の解体が完了することになります。
- 引き続き、慎重かつ安全最優先で作業を進めてまいります。



Eエリアの状況 (2025年11月27日)



EエリアD1タンク外観(2026年4月13日)

## 【Eエリアタンク】

容量	: 1,000m <sup>3</sup> /基
基数	: 全49基 (48基解体済み)
直径	: 約12m
高さ	: 約10m